

---

# 雪祈葬

青糸

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雪祈葬

### 【Nコード】

N7777E

### 【作者名】

青糸

### 【あらすじ】

神がいない世界。それは、消えた二人の神の意志を継ぐ者たちの戦場。

## 01・悪夢であれと願う者

夜の魔物は緋色に濡れる  
世界に巣くう物語の紡ぎ手

雪祈葬

〓 01・悪夢であれと願う者〓

部活で帰りが遅くなって、時計を見れば午後九時。  
早道をしようと思って裏道を通った。そう、それだけ。  
でも僕はここまで運が悪いんだろうか。  
なんでこんな光景を目にする？

目の前に居るのは人。

普通の人じゃないことは一目で分かった。

大きな鎌に、黄金色の髪に、エメラルドの目。

そいつの足元には血まみれのスーツを着た男が倒れていて。  
倒れている男が誰だかはすぐにわかった。

この頃ニュースで話題になっているインターネットで企業が大成  
功した人だ。

よくよく見れば、持っている大鎌にも血がべっとりついていて、  
そいつの服にも大量の血。でも傷がある様子はない。

殺したのは一目瞭然。

そいつは頬についた返り血を拭うこともなく、口を開いた。

「なあんだ。またネズミが増えたかと思ったじゃないか」

僕の耳に届いたのは思いのほか綺麗な声で。  
そいつは一步一步近寄ってくる。

僕も、一步一步後ずさりする。

「少年、学生でしょ？この国の制服着てるしさ」  
「君は・・・何・・・?!」

僕の口から出たのは、震えてかすれた声。

そいつは足を止めて、微笑んだ。

血のついたその笑みは妖艶で。

そいつは静かに言った。

「ボクたちはNightmare・・・夜の魔物さ」

Nightmare・・・悪夢。

今の僕の思いにぴったりだ。

これが悪夢であってくればどれだけ嬉しいことか。

この光景を目にした瞬間は、それを願った。

でも、夢じゃないなんてすぐにわかった。

「世界の事件には必ずと言っていいほどボクたちが絡んでる。

まあ、この二ホンっていう国には最近出てきたばかりだけど」

ああ、これが夢ならこんな夢を作り出す自分の脳に乾杯だ。  
ありえない。

そんな事実があることも、そんな事実を笑いながら言えるこいつ

も。

「たとえばロンドンの切り裂きジャック。アレもボクたちの仲間・

・  
タンゴがやったことさ。でもアイツ調子に乗るからね。

事が大きくなったからジャックとかいう奴に罪を着せただけ」

ロンドンの切り裂きジャックは本で読んだから知っていた。

でも、こいつの言うことが本当なら切り裂きジャックは無実なのに殺されたことになる。

なんと哀れなことか。

「自己紹介が遅れたね」

今更自己紹介も何もあるかと思ったが、そいつは頭に乗せていた小さなシルクハットをとった。

そしてまたふわりと笑って口を開く。

「ボクはワルツ。死神のワルツ」

そう言って、ソイツは嗤いながら、血にまみれた鎌を僕に突きつけた。

「遊ぼうよ。少年」

僕は恐怖に足が竦んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7777e/>

---

雪祈葬

2010年11月12日07時20分発行